

学校における 食物アレルギー対応 最前線

監修：国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部長 海老澤元宏
昭和大学小児科学講座 講師 今井孝成

近年、学校現場における食物アレルギーの問題が注目されるようになってきました。栄養教諭や学校栄養職員(以下、栄養教諭)にとって、アレルギーを有する児童生徒に対して安全性を確保しつつ良好な栄養状態を保つのは難しく、対応に苦慮する場面もあるのではないのでしょうか。栄養教諭が食物アレルギーに対する正しい知識を持つことは、他の学校教諭や給食現場、保護者、医師らと連携しながら学校での取り組みを進めていくための基礎となります。ここでは、アレルギー疾患研究の最前線に立ち、ガイドライン策定や啓発活動の中心となっている国立病院機構相模原病院の海老澤元宏先生と昭和大学の今井孝成先生に監修いただき、食物アレルギーの基礎および正しい診断方法、ガイドラインに基づく治療や栄養指導について解説します。

学校における 食物アレルギー対応 最前線

食物アレルギーを取り巻く状況は大きく変化している

食品へのアレルギー物質の表示や学校でのエピペン®使用など、ここ10年ほどの間に、食物アレルギーへの社会的対応は大きく変化しています(表1)。アレルギーに対する正しい情報が発信されるようになった昨今ですが、まだ正しい診断や指導にたどり着けていない患者や保護者も多いです。また、医師との連携が不十分であることや周囲の理解不足も一因となり、学校対応において混乱がみられる場合があるのが現状です。

学校給食は、成長期の児童生徒に必要な栄養を提供するだけでなく、食育の重要な教材として位置付けられてもいます。そのため、食物アレルギーを有する児童生徒も含めた、すべての児童生徒に対する適切な対応が求められています。

学童期の食物アレルギー有病率は2.6% アトピー性皮膚炎との関連は薄くなる

食物アレルギーの基礎について解説します。アレルギー原因となる食物中の特定のタンパク質(アレルゲン)が免疫細

表1 食物アレルギー・アナフィラキシーの社会的対応の歩み

2002年	アレルギー物質を含む食品表示開始(厚生労働省)
2005年	エピペン®の食物アレルギーおよび小児への適応拡大(厚生労働省)
2005年	「食物アレルギーの診療の手引き2005」(厚生労働省研究班) 「食物アレルギー診療ガイドライン2005」(日本小児アレルギー学会)
2006年	食物アレルギー関連(入院での食物負荷試験・栄養指導)の診療報酬化(厚生労働省)
2007年	アレルギー疾患への対応の現状報告(文部科学省) (食物アレルギー有病率2.6%、アナフィラキシー0.1%との報告)
2008年	「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」および「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」(日本学校保健会)
2008年	外来での食物負荷試験の診療報酬化(厚生労働省)
2008年	「食物アレルギーの診療の手引き2008」改訂(厚生労働省研究班) 「食物アレルギーの栄養指導の手引き2008」(厚生労働省研究班)
2009年	「食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン2009」(日本小児アレルギー学会)
2009年	業務としての救急救命士へのエピペン®の使用解禁(厚生労働省・総務省)
2009年	食物負荷試験実施施設公開(厚生労働省研究班・食物アレルギー研究会)
2011年	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省)
2011年	エピペン®保険診療の適応(厚生労働省)
2011年	「食物アレルギー診療ガイドライン2012」(日本小児アレルギー学会)
2011年	「食物アレルギーの診療の手引き2011」改訂(厚生労働省研究班) 「食物アレルギーの栄養指導の手引き2011」改訂(厚生労働省研究班)

資料提供: 国立病院機構相模原病院臨床研究センター
海老澤元宏アレルギー性疾患研究部長

胞のIgE抗体に結合すると、ヒスタミンなどの放出が誘発されます。通常は外敵からの防御に働くこの免疫反応が原因食物の摂取により過剰に起こり、身体に不利益をもたらしている状態が食物アレルギーです。反応部位により様々な症状が現れます(表2)。なお、食中毒や乳糖不耐による下痢などの食物不耐症は免疫反応ではなく、食物アレルギー症状には含まれません。

乳幼児期の食物アレルギー有病率は5~10%ですが成長とともに食べられるようになり、学童期では2.6%に減ると報告されています。原因食物は、0~6歳までは鶏卵や乳製品が多い一方で、学童期以降の新規発症では甲殻類や果物類が多くなります。

食物アレルギーはほとんどが2時間以内に現れる即時型症状ですが、特殊型として、原因食物の摂取後に運動することで誘発される「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」や、果物や野菜などの口腔粘膜への接触により症状が起こる「口腔アレルギー症候群」が知られています。新生児~乳児期には食物アレルギーの関与するアトピー性皮膚炎もありますが、適切に管理されていれば、学童期にはまれになります。

診断の基本は食物経口負荷試験 血液検査はあくまでも参考値

食物アレルギーの診断は、原因食物を摂取させて症状を確認する「食物経口負荷試験」に基づいて行い、食物除去は必要最小限に留めるのが原則です。

表2 食物アレルギーにより引き起こされる症状

- **皮膚症状:**
痒痒感、じんましん、血管運動性浮腫、発赤、湿疹
- **粘膜症状:**
眼症状 : 結膜充血・浮腫、痒痒感、流涙、眼瞼浮腫
鼻症状 : くしゃみ、鼻汁、鼻閉
口腔咽頭症状 : 口腔・口唇・舌の違和感・腫脹、咽頭の痒み・イガイガ感
- **消化器症状:**
腹痛、悪心、嘔吐、下痢、血便
- **呼吸器症状:**
喉頭絞扼感、喉頭浮腫、嘔声、咳嗽、喘鳴、呼吸困難
- **全身性症状:**
アナフィラキシー : 多臓器の症状
アナフィラキシーショック : 頻脈、虚脱状態(ぐったり)、意識障害、血圧低下

海老澤元宏(研究代表者): 厚生労働科学研究班による食物アレルギーの診療の手引き2011より引用

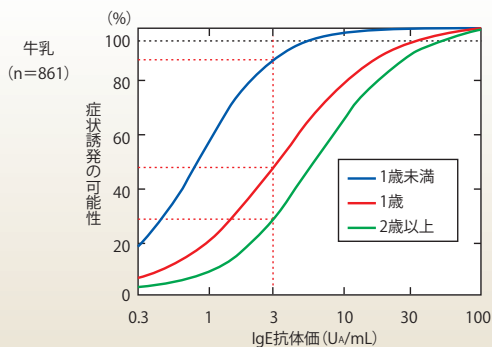
アレルギー検査として広く行われる血液検査は、食物中のアレルゲンと血中のIgE抗体との免疫反応をみる検査です。IgE抗体価が陽性であることと食物経口負荷試験(以下、負荷試験)の結果とは、必ずしも一致しません。血液検査で陽性のIgE抗体価クラス2~3の患者のうち、負荷試験を行って反応が陽性となる確率は、原因食物が牛乳や鶏卵では約6割、小麦で約3割、大豆では2割弱しかありません。残りの患者は、血液検査陽性であっても問題なく摂取できます。IgE抗体価が高いほど負荷試験の陽性率は高くなります(図1)。

医師の指示のもと家庭と連携して段階的に摂取可能な食品を増やす

給食では原因食物の完全除去を基本として対応しますが、家庭や設備の整った給食施設では一部除去を行っている施設があります。家で保護者の監督下であれば、牛乳200ccは摂取できなくても25ccまで摂取可能であればパンや乳酸菌飲料を使用するといったように、段階的に摂取できる食品の幅を広げていくことも可能ですが、安全が優先される学校給食においてはそのようなことは勧められません。

最近では研究的な治療として経口免疫療法を受けている児童生徒もいると思います。少量のアレルゲンを継続的に増量しながら摂取しているとIgE抗体価が低下し、症状が出なくなっていく。しかし、免疫療法中もしくは終了後もしばらくは、症状が出ないことが治っていることと同じとは限りません。風邪を引いたり、運動をしたりすると症状が突然誘発されることも多いです。経口免疫療法は必ず専門の医師の指示に従って行われるべき方法であり、給食対応は通常困難な場合が多く、家庭との連携により実施されます。しかし、少量でも摂取できるようになれば、アレルゲンがわずかでも混入している可能性のある「〇〇を含む製品と共通の設備で製造しています」といった表示のある食品に対する保護者の不安感が軽減されると考えられます。

図1 血中抗原特異的IgE抗体価と症状誘発の可能性(プロバビリティーカーブ)



牛乳のIgE抗体価3.0U_A/mLの場合、症状を誘発する可能性は1歳未満の児では約90%、1歳児では約50%、2歳以上の児では約30%である。しかしあくまでも確率論であることに留意する。

海老澤元宏(研究代表者):厚生労働科学研究班による食物アレルギーの診療の手引き2011より引用

専門の医師による診断に基づき除去は必要最小限とし適切な管理を

食物アレルギー対応の原則は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」であり、これは学校対応でも同様です。これには専門の医師による診断が必要なこともあります。日本アレルギー学会のウェブサイト^{*1}では学会が認定した専門医・指導医のリストが閲覧でき、また食物アレルギー研究会のウェブサイト^{*2}では診断に重要な「食物経口負荷試験」の実施医療施設が検索できます。緊急時の対応や保護者に紹介すべき場合に備え、近隣の医師や施設について確認しておきましょう。

食物アレルギーの症状や原因食物は成長とともに変化します。学校対応を行うにあたっては、該当の児童生徒には定期的な医師の受診を促し、毎年「学校生活管理指導表」(表3)を提出してもらうことが必要です。この表には病型や原因食物、診断根拠(症状の有無や検査方法)が記入されます。また対応するガイドライン(日本学校保健会発行「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」^{*3})には給食など学校生活上の留意点、処方薬や緊急時の対応および連絡先などもまとめられており、この指導表とガイドラインをセットで運用することは学校でのアレルギー対応の基本となるものです。なお、保育所の場合には「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」および厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」^{*4}を使用します。

- *1 日本アレルギー学会:<http://www.jsaweb.jp/>
- *2 食物アレルギー研究会:<http://www.foodallergy.jp/>
- *3 学校保健ポータルサイト内:<http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/0100.pdf>
- *4 厚生労働省ウェブサイト内:
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku03.pdf>

表3 学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)

学名	性別	年齢	学年	誕生日	学校	学年	提出日	年月	日
学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)	A. 食物アレルギー(食物アレルギーありの場合のみ記載)		B. 検査結果		C. 学校生活上の留意点		D. 緊急時		
	1. 診断済		1. 検査結果		1. 給食		1. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	2. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		2. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		2. 給食(食物アレルギー対応)		2. 緊急時連絡先		
	3. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		3. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		3. 給食(食物アレルギー対応)		3. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	4. 診断済		4. 診断済		4. 給食		4. 緊急時連絡先		
	5. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		5. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		5. 給食		5. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	6. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		6. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		6. 給食		6. 緊急時連絡先		
	7. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		7. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		7. 給食		7. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	8. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		8. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		8. 給食		8. 緊急時連絡先		
	9. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		9. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		9. 給食		9. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	10. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		10. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		10. 給食		10. 緊急時連絡先		
	11. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		11. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		11. 給食		11. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	12. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		12. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		12. 給食		12. 緊急時連絡先		
	13. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		13. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		13. 給食		13. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	14. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		14. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		14. 給食		14. 緊急時連絡先		
	15. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		15. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		15. 給食		15. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	16. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		16. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		16. 給食		16. 緊急時連絡先		
	17. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		17. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		17. 給食		17. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	18. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		18. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		18. 給食		18. 緊急時連絡先		
	19. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		19. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		19. 給食		19. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	20. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		20. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		20. 給食		20. 緊急時連絡先		
	21. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		21. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		21. 給食		21. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	22. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		22. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		22. 給食		22. 緊急時連絡先		
	23. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		23. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		23. 給食		23. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	24. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		24. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		24. 給食		24. 緊急時連絡先		
	25. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		25. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		25. 給食		25. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	26. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		26. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		26. 給食		26. 緊急時連絡先		
	27. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		27. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		27. 給食		27. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	28. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		28. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		28. 給食		28. 緊急時連絡先		
	29. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		29. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		29. 給食		29. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	30. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		30. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		30. 給食		30. 緊急時連絡先		
	31. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		31. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		31. 給食		31. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	32. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		32. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		32. 給食		32. 緊急時連絡先		
	33. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		33. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		33. 給食		33. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	34. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		34. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		34. 給食		34. 緊急時連絡先		
	35. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		35. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		35. 給食		35. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	36. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		36. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		36. 給食		36. 緊急時連絡先		
	37. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		37. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		37. 給食		37. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	38. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		38. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		38. 給食		38. 緊急時連絡先		
	39. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		39. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		39. 給食		39. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	40. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		40. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		40. 給食		40. 緊急時連絡先		
	41. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		41. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		41. 給食		41. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	42. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		42. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		42. 給食		42. 緊急時連絡先		
	43. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		43. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		43. 給食		43. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	44. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		44. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		44. 給食		44. 緊急時連絡先		
	45. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		45. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		45. 給食		45. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	46. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		46. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		46. 給食		46. 緊急時連絡先		
	47. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		47. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		47. 給食		47. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	48. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		48. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		48. 給食		48. 緊急時連絡先		
	49. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		49. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		49. 給食		49. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	50. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		50. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		50. 給食		50. 緊急時連絡先		
	51. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		51. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		51. 給食		51. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	52. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		52. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		52. 給食		52. 緊急時連絡先		
	53. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		53. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		53. 給食		53. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	54. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		54. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		54. 給食		54. 緊急時連絡先		
	55. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		55. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		55. 給食		55. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	56. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		56. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		56. 給食		56. 緊急時連絡先		
	57. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		57. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		57. 給食		57. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	58. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		58. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		58. 給食		58. 緊急時連絡先		
	59. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		59. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		59. 給食		59. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	60. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		60. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		60. 給食		60. 緊急時連絡先		
	61. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		61. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		61. 給食		61. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	62. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		62. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		62. 給食		62. 緊急時連絡先		
	63. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		63. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		63. 給食		63. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	64. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		64. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		64. 給食		64. 緊急時連絡先		
	65. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		65. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		65. 給食		65. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	66. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		66. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		66. 給食		66. 緊急時連絡先		
	67. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		67. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		67. 給食		67. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	68. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		68. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		68. 給食		68. 緊急時連絡先		
	69. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		69. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		69. 給食		69. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	70. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		70. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		70. 給食		70. 緊急時連絡先		
	71. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		71. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		71. 給食		71. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	72. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		72. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		72. 給食		72. 緊急時連絡先		
	73. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		73. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		73. 給食		73. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	74. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		74. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		74. 給食		74. 緊急時連絡先		
	75. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		75. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		75. 給食		75. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	76. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		76. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		76. 給食		76. 緊急時連絡先		
	77. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		77. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		77. 給食		77. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	78. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		78. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		78. 給食		78. 緊急時連絡先		
	79. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		79. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		79. 給食		79. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	80. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		80. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		80. 給食		80. 緊急時連絡先		
	81. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		81. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		81. 給食		81. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	82. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		82. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		82. 給食		82. 緊急時連絡先		
	83. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		83. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		83. 給食		83. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	84. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		84. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		84. 給食		84. 緊急時連絡先		
	85. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		85. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		85. 給食		85. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	86. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		86. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		86. 給食		86. 緊急時連絡先		
	87. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		87. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		87. 給食		87. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	88. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		88. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		88. 給食		88. 緊急時連絡先		
	89. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		89. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		89. 給食		89. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	90. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		90. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		90. 給食		90. 緊急時連絡先		
	91. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		91. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		91. 給食		91. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	92. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		92. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		92. 給食		92. 緊急時連絡先		
	93. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		93. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		93. 給食		93. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	94. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		94. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		94. 給食		94. 緊急時連絡先		
	95. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		95. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		95. 給食		95. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	96. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		96. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		96. 給食		96. 緊急時連絡先		
	97. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		97. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		97. 給食		97. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	98. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		98. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		98. 給食		98. 緊急時連絡先		
	99. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		99. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		99. 給食		99. 緊急時連絡先		
アレルギー疾患用	100. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		100. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		100. 給食		100. 緊急時連絡先		
	101. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		101. 食物経口負荷試験結果(アレルゲン)		101. 給食		101. 緊急時連絡先		

☆日本学校保健会のウェブサイト(<http://www.gakkohoken.jp/book/bo0002.html>)からダウンロードができます。

☆「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」については、厚生労働省のウェブサイト(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku03_005.pdf)からダウンロードができます。

文部科学省スポーツ・青年局 監修:学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドラインより引用

表4 食物アレルギー対応における校内対応マニュアルの内容

1. 食物アレルギーの症状とアナフィラキシーショック
2. 食物アレルギーを引き起こすことが明らかな食品
3. 食物アレルギー対応における教職員の役割
4. 学校生活で気をつけたい行事
5. 児童生徒への指導(個別指導)
児童生徒への指導(学級の全体指導)
6. 食物アレルギーの症状への対応
アナフィラキシーショックへの対応
7. 食物アレルギー対応 1年間の流れ

資料提供: 全国学校栄養士協議会 長島美保子氏

表5 食物アレルギー対応における教職員の役割

- 校長** …… 教職員の共通理解が持てるよう指導する。対応決定。
- 給食主任** …… 児童生徒の実態・保護者の要望等を確認。
緊急時の対応・連絡先確認。
- 学級担任** …… 食物アレルギー対応を必要とする児童生徒が、安全で楽しい給食時間を持つことができるよう配慮。
- 養護教諭** …… 実態把握。学級担任・**栄養教諭**・他の教職員との連携を図る。
主治医・学校医との連携を密にし、症状が出た場合の応急措置方法や連絡先を事前に確認しておく。
栄養教諭と共に個別面談を実施。
- 栄養教諭** …… 実態把握。学校給食での対応について協議。
保護者との密な連携。除去食・代替食の調理指示。
給食時の指導及び担任へのアドバイス。
養護教諭と共に個別面談を実施。

資料提供: 全国学校栄養士協議会 長島美保子氏

「学校生活管理指導表」が対応の基本マニュアルを作成し全職員で情報共有

学校現場における食物アレルギー対応については校内マニュアルを準備し、各職員の役割を確認することが求められます(表4、5)。アナフィラキシーなど緊急時対応も含めた基本事項は前述の「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に記載されています。「厚生労働科学研究班による食物アレルギーの診療の手引き2011」*2および「厚生労働科学研究班による食物アレルギーの栄養指導の手引き2011」*2や日本学校保健会発行の「食物アレルギーによるアナフィラキシー学校対応マニュアル」*5などを併せて参考にし、各施設の状況に即したマニュアルを作成しておくといえます。

対象となる児童生徒への対応については、前項の「**学校生活管理指導表**」に基づいて**学級活動や行事、校外学習における体制の整備**を行います。他の児童生徒にはアレルギーへの理解を求めめるための指導を行います。中心となるのは学級担任や**栄養教諭**、**養護教諭**ですが、教職員全員が各児童生徒の食物アレルギーを把握し、学校全体で取り組

むことが重要です。保護者や教育委員会との連携はもちろん、専門の医師を含む地域の医師会や消防機関とも協力した対応が必須です。

学校給食では、**学校生活管理指導表に従って除去食または代替食を提供**しますが、給食センター方式など様々な理由でアレルギー対応ができない場合は、原材料を詳細に記入した献立表を家庭に配布し、①本人が除いて食べる、②弁当を持参する、のいずれかの対応をしているところが多いと思います。

同じ原因食物でも個々の児童生徒で症状や摂取可能な範囲は異なり、個別対応すると作業が煩雑となります。事故防止というリスク管理の観点から、前述の**栄養指導の手引き**では「**園・学校対応は『完全除去を基本』として作業を単純化し、安全性を担保すること**」としています。

*5 日本小児アレルギー学会ウェブサイト:
http://www.jspaci.jp/modules/gcontents/index.php?content_id=3

栄養指導における**栄養教諭**の役割は大きいガイドライン等で最新情報をアップデート

栄養教諭は学校で数百人規模の児童生徒に接しており、その中で対応すべき児童生徒を発見して専門の医師の受診につなげることができるという点で、その役割は非常に重要です。また、**栄養教諭**が保護者に対して食物摂取・除去の基準を医師の診断を基に正しく示すことで、児童生徒本人や保護者の精神的、身体的負担を軽減できると考えられます。

食物アレルギーに関する最新の知見については、前述の学会ウェブサイト、ガイドラインや診療の手引き、**栄養指導**の手引きが参考になるほか、海老澤先生、今井先生が中心となり、各地で研修会や講演活動が行われていますので、機会があればぜひ参加してみましょう。

まとめ

今回監修いただいた先生方の体験談として、牛乳アレルギーを克服した児童生徒がアイスクリームを食べて大喜びしたり、保護者の安堵した様子がありありと見て取れたりすることなどが挙げられました。食物アレルギーを克服したことで自信が付き、様々なことに積極的になったという経験もあるそうです。「**学校生活管理指導表**」の運用をすることは“保護者の希望のみ”による食物除去の申請を受け付けないことに繋がり、真に対応が必要な本当の食物アレルギーの児童生徒に重点的に対応できるようになります。今後は**栄養教諭**が中心となって、最新のガイドラインに基づいた適切な食物アレルギー対応が学校現場に広がっていくことが期待されます。